Ⅲ　学校評価自己評価

１．学園小中一貫教育報告一覧

学 園 名	「目指す子ども像」、教 育 目 標
1 峰山学園	「教育目標」　自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 「目指す子ども像」 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）
2 大宮学園	（1）教育目標　自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成 （2）目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	「目指す子ども像」 あ：明るく元気に進んで学ぶ子　【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子　【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 「学校教育目標」　将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子　【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子　【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子　【体】 「教育目標」　夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	「教育目標」　故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成
6 久美浜学園	[教育目標]　ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 [目指す子ども像] （知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

２．京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学 校 名	学　校　・　園　教　育　目　標
1 峰山こども園	“笑顔でつなごう。みんなの　てとて!!” ―はなそう・つたえよう・みんなのおもい― （1）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （2）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 （3）身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	「心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成」 ○健康で安全に活動する子どもの育成 ○身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成 ○素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子どもの育成
3 網野こども園	（1）園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 （2）自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。 （3）園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 （4）常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。 （5）地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4 丹後こども園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。
5 弥栄こども園	「ともだち　だいすき　つながるえがお」 ～やってみたい！明日もやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ○さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ○生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
6 かぶと山こども園	こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 ≪元気　勇気　笑顔　つながれ仲間≫「ぼくもわたしも　みんな大好き！」～包みこまれている安心感の中で、のびのびと生きる子どもをめざして～ １ 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 ２ 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 ３ 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。 1　将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2　ものごとの価値、生き方・在り方を深く考え自律的に行動する力を育てる。 3　学んだことを生かして、社会に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1　意欲を持って自ら学ぶ子ども 2　思いやりのある子ども 3　進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1　一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2　「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3　保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	◇　一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇　やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇　安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇　他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園　教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。
13 網野北小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・ あかるく元気に進んで学ぶ子 ・ みんななかよく支え合う子 ・ のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子　【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子　【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。（特に重視）
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ＜目指す学校像＞ 1　よく考え学ぶ学校 2　友だちと仲良くする学校 3　最後まで粘り強く努力する学校 4　家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
19 吉野小学校	1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2　確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3　家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4　学園の小中一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、 たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。 1　質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2　質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。 3　中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 ―　子どもの実態や系統性を踏まえた指導　― 1　基礎基本の徹底 2　言語活動の充実（授業づくり） 3　家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 （知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	1　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2　学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3　健康な体と豊かな心の教育の充実 4　信頼され、開かれた学校づくり 5　教職員の資質能力の向上 6　大宮学園小中一貫教育の推進
26 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。 2　未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。 3　思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。
27 丹後中学校	開校６年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。 ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめることなく、実現しようとする生徒の育成
29 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1　生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。 2　学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。 （1）学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底 （2）「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実 3　「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ地域とともにある学校づくりを目指す。

（別紙様式２）

令和元年度　峰山学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】
「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」「思いやりのある子ども（徳）」「進んで心と体を鍛える子ども（体）」
【教育目標】
「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

（１）確かな学力の育成
言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）
※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。
ア　生徒指導の３機能を生かした授業を進める

授業の中で目指す児童生徒の姿　（３目標）
①自己決定をしている
②自己存在感を感じている
③共感的な人間関係をはぐくんでいる

⇩

そのための指導方法　（３視点）
①主体的に活動する場面が設定された授業
②本時の目標が明確で「わかる」授業
③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ　目標と指導と評価の一体化を進める
（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計
（イ）単元総括テストの蓄積と検証

（２）コミュニケーション能力の育成
確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の３機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）
ア　生徒指導の３機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）
イ　自己肯定感を高める取組（特別活動）
（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組
（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組

（３）評価を見通した取組の充実
ア　学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実
イ　教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価（実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	（１）学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 （２）学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け （３）学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	（１）児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会で、峰山学園の児童・生徒実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 （２）学校経営及び進行管理 ○経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題の把

		握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主任、指導教諭が担任会に入り、中学校数学科の教員が５・６学年担任会に入り、学習指導部会と連携できる組織となり、より充実した活動ができた。 ○担任会で総括テストを交流することは、テストを作成するために単元の指導構想をつくったり、５・６年担任会では、中学校の先生方から意見をいただくことができたりして、自らの指導力の向上に役立った。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	（1）自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり （2）汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 （3）単元総括テストの作成と交流 （4）京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 （5）学力充実期間等の設定 （6）中１ふりスタ （中学校１年生集中振り返り学習） （7）全ての学年でのふりスタ （8）中学校体験授業 （9）「５年生・６年生の心得」 ⑽ 二分の一成人式（小学校４年生）、立志式（中学校２年生） ⑾ こども園、小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 ⑿ 小１アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善	就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。 本年度、０期、Ⅰ期～Ⅲ期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。教育課程部会、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。 （1）児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有 ○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 （2）就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 ○年間４回校園長会を実施し、連携を深め、１０年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、１年担任会（こども園の参加）・教育課程会議の取組で、園児・児童の連携した支援を行うことができるようにしてきた。 ●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。小１アプローチプログラム・スタートカリキュラムも改善し、実践する。 ○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、０期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしようと確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに０期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。 ○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の３機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。また、秋季研修会と年度末研修会では、学習指導部会が中心となって取り組み、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 ○１中学校４小学校だから実施する必要性があること「中学校体験授業」「小学校合同校外学習」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業（小中連携加配）」（体育）にも取り組むことができた。中学校の授業について児童は知ることができ、有用である。 ○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小４ふりスタ・６年生春季宿題の共通化・中１ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小１～小５

		までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の３機能を生かす取組ができ、おおむね落ち着いた状況で生活できている。 ○ＳＮＳに係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●ＳＮＳにかかる指導については、ＰＴＡとの連携が必要であるので、運営会議とも連携して進める。 ○「二分の一成人式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。今後学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ○今後も、「５・６年生の心得」などは、常に児童生徒の実態を踏まえ、検討を行い、全員で確認をしながら指導を進めていく。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	（1）目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア　教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ　授業を通した研修会 ウ　担任会を通した研修 （2）「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア　峰山中学校合唱祭 イ　部活動体験 ウ　合同授業・学びの交流等 エ　体育祭等 オ　生徒指導の３機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ　学校や地域の一員として主体的に参加する取組	○「『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の３機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を前進させることができた。 ○全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができた。 ○小学校合同校外学習・合同授業等を通して小小の交流を深め、豊かな学習を創り上げたりすることができている。 ○交流会等への峰山高等学校教員の参加など、高等学校との連携を今後も進めていく。
家庭、地域社会との連携、情報発信	（1）家庭・地域への情報発信 （2）学校支援ボランティアの活用 （3）家庭との連携	○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園ＰＴＡ統一目標を策定したり、具体的にＰＴＡ挨拶運動（峰山学園ＰＴＡみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○小中一貫教育学園コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○地域コーディネーターの配置を受け、学校支援ボランティア等を活用し、市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。 ○ＳＮＳについて、各小中学校で実態に合わせてＰＴＡと連携して取り組むことができた。今後もＳＮＳに係る指導をＰＴＡと連携して進めていく。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
≪成果≫ 1　児童生徒、教職員アンケート結果より ・峰山学園の小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 2　峰山学園の教職員のアンケートによって確実に小中一貫教育で目指している指導が浸透しつつある。授業について小・中学校の教員が協議できるようになってきた。 3　学園経営及び進行管理について ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践を取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の３つの柱（授業を見る視点、生徒指導の３機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることが出来た。 3　１０年間を見通して一貫した取組について ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の３機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた ・１０年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。 特に、０期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を具体化してその指導を行う。学園内で各期に身に付けさせる力を協議して明らかにすることができた。 ・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小４ふりスタ・６年生春季宿題の共通化・中１ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小１～小５までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ・「５年生・６年生の心得」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく授業にも生徒指導の３機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成人式」「立志式」にも取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。 ・「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の３機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を大きく前進させることがで	改善方策 ○令和２年度は、現体制（１中学校４小学校２子ども園の組織図及び組織体制）で運営していく。 ○担任会の取組の継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③０期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和２年度の目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 【令和元年度】 1　目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体） 2　教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 3　目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 4　学園経営方針 （1）一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 ア　自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 イ　自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることができる取組を進める。 ウ　粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることができる取組を進める。 （2）「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 ア　児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 イ　「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組み、専門性の向上を図る。 ウ　１０年間を見通して一貫性・系統性のある指導を行う。 エ　互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 オ　保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。 （3）保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 ア　ＰＴＡ・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 イ　保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。 ウ　市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を

きた。
・小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。

≪課題≫
1　令和２年度学園経営に向けて
（1）組織体制及び運営上の改善
・１０年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、０期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。
（2）令和２年度に向けての重点的な課題・取組方向
【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】
・令和２年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、ＰＤＣＡサイクルで、学園経営を行っていく。
【学園指導の重点】
・特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。
・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践の分かる化を進める。
・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に授業づくりを重点として取組を行う。
・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の３機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践を積み上げる。
・「確かな学力の育成」　「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。
・生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、自己指導能力・人間関係力を身に付ける指導方法・取組について実践を積み上げていく。その中で、中学校卒業時に付けるコミュニケーション能力を明らかにしていく。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。
・学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園運営協議会での評価により指導の改善を図る。
・教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。
保護者、地域の方々の評価については変更を加える。
【小中一貫教育の具体的な内容】
・０期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。
進める。
○学園指導の重点
指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。
教育課程部会が担任会等で協議して作成した（０）Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を行う。
（1）確かな学力の育成
生徒指導の３機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）
※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。
ア　生徒指導の３機能を生かした授業を進める
授業の中で目指す児童生徒の姿　（３目標）
①自己決定をしている
②自己存在感を感じている
③共感的な人間関係をはぐくんでいる
そのための指導方法　（３視点）
①主体的に活動する場面が設定された授業
②本時の目標が明確で「わかる」授業
③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業
イ　目標と指導と評価の一体化を進める
（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計
（イ）単元総括テストの蓄積と検証
（2）コミュニケーション能力の育成
確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の３機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）
ア　生徒指導の３機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）
イ　自己肯定感を高める取組（特別活動）
（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組
（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組
（3）評価を見通した取組の充実
ア　学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実
イ　教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

○　小中一貫教育の具体的な内容
1　児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて
（1）学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化
（2）学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け
（3）学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け
2　就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程
（1）峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課

（3）令和２年度に向けての年間計画・行事の見直し	程の作成 ア　自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり イ　汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 ・小６児童の不安感や中１生徒の困り感の再検証 中１ギャップの捉え直し ・単元総括テストの作成と交流と検証 ・京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ・学力充実期間等 ・乗り入れ授業 ・小学校高学年での一部教科担任制（音楽科） ・中１生集中振り返り学習 ・全ての学年でのふりスタ ・中学校体験授業（年２回） ・二分の一成人式（小４生）、立志式（中２生） ウ　０期Ⅰ期～Ⅲ期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。 エ　こども園と小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 ・小１アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 ３　子ども、教職員の交流と協働 （1）「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化 ⇒教職員の協働及び教職員の交流 ア　教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ　授業を通した研修会 ウ　担任会を通した研修 （2）「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア　峰山中学校合唱祭 イ　部活動体験・作品展 ウ　合同授業・学びの交流等 エ　峰山中学校体育祭（自由参加） オ　生徒指導の３機能を生かした授業実践 カ　学校や地域の一員として主体的に参加する取組 キ　クリーンキャンペーン ４　家庭、地域社会への積極的な情報発信 （1）峰山学園運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信 （2）中学校区の家庭教育の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）を踏まえた「峰山学園」ＰＴＡ統一目標の設定 （3）「峰山学園」ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 （4）学園の教育活動に支援体制（学校支援ボランティア等）の機能化と充実

（別紙様式２）

令和元年度　大宮学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

（１）教育目標
　　自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成
（２）目指す子ども像
　○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知）
　○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳）
　○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

（１）確かな学力の育成：「言語活用カリキュラム」の継続
　①基礎学力の向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」による授業づくり
　②小中接続を充実させるための授業づくり、授業計画の策定
　③「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり
　④保幼小の接続のためのアプローチプログラム・小１スタートカリキュラム
（２）人権意識の育成：「人権教育カリキュラム」の継続
　①人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実
　　全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
　②人権意識を育成するための人権学習の充実
（３）連携・体験活動の充実
　①５歳児１年生・汽水域を中心にした効率的・効果的な連携教育活動、体験活動の充実
　②体験活動を通して「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
　③効率的・効果的な共通した学校のきまり（学習・生徒指導・家庭連携）
　④夢・未来式（４年生・中３年生）
（４）目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働
　①教職員の授業研究（主体的・対話的で深い学び）
　②合同研修会・実践交流会の実施
（５）家庭、地域社会への啓発、情報発信
　①中学校区の家庭教育の課題を踏まえた「大宮学園」ＰＴＡ統一目標の策定
　②大宮学園ＰＴＡによる「家庭のやくそく」の継続、親のための応援塾の継続
　③大宮学園ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施
　④大宮学園教育支援協議会による大宮学園教育環境づくりの推進
　⑤「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1)学園内の全ての学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。 (2)学園内の全ての学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。 (3)学園内の全ての学校が、学園児童実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。 (4)学園小中一貫教育推進部会による理	(1)学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の２園所、３校での共通化に取り組んだ。 (2)学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。 (3)学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。 (4)経営会議で園所・校の連携を図り、１０年間の一貫した指導の充実に努めた。

	論・実践研究成果を各校に波及させる。	(5)学園小中一貫教育推進３部会の実践研修成果を、各園所・校の運営に波及することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1)大中校区小中一貫校教育課程の編成 ①汽水域指導プログラムの推進等 ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・５・６年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年２回） ②Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の学習への円滑な接続 ・アプロ―チプログラム、小１スタートカリキュラム（５歳児担任・１年担任） ・夢・未来式の実施（小４年生・中３年生） ・小４・中１ふりスタ ・春季休業中の共通宿題（６年生） ③家庭学習の充実 ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 (2)学力充実向上に関する取組の進行管理 ①学力調査と分析 ②授業充実・授業力向上 (3)生徒指導・教育相談の一貫・接続 ①５・６年生の心得 ②共通の生活の決まり ③情報モラル教室 ④保園小中連携シート (4)モデルカリキュラムに係る推進 ①モデルカリキュラムの研修 ②モデルカリキュラムの年間指導計画への位置付け	(1)大中校区小中一貫校教育課程の編成について ①汽水域指導プログラムの推進等について ・小中連携加配に乗り入れ授業（音楽）を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・英語指導について、小学校との授業研究を進めることで、授業づくりについての協働が進んだ。 ②Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の学習への円滑な接続について ・保園と小学校との連携のもと、小１プロブレムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小４と中３で、夢・未来式に取り組んだ。 ・６年生を対象に共通テスト（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③家庭学習の充実について ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 (2)学力向上に関する取組の進行管理について ①学力充実部で学力分析を行うとともに、視点を明らかにした年間２回の大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ②教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 (3)生徒指導・教育相談の一貫・接続 ①学園として小中各校、一貫校ＰＴＡで情報モラル学習を実施し、多くのことを学ぶことができた。 ②事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 (4)モデルカリキュラムに係る推進について ①学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1)連携・体験活動 ①人権意見発表会（学校毎） ②合唱祭　③体育祭（招待状） ④部活動体験　⑤体験授業 ⑥花いっぱい運動（学校毎） (2)幼児・児童・生徒交流活動 ①児童会・生徒会交流活動 ②挨拶運動　③生徒会アドバイス ④児童会・生徒会スローガン (3)教職員の交流と協働 ①担任会（小小担任会、１年担任と５歳児担任、６年担任と中１担任） ②授業研究　③合同研修・実践交流会	(1)連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について ①「おおみや学園のうた」ができ、合唱祭等行事や取組の中で園所校で学園の歌として歌うことができた。 ②児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、計画通りに取り組めた。 ③掲げた大宮学園スローガンを意識して、取り組むことができた。 (2)教職員の交流と協働について ①合同授業研究会で、授業づくりについて学ぶ機会は意義があり、今後も充実を図りたい。 ②３部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1)中学校区の家庭教育課題を踏まえた「大宮学園」ＰＴＡ統一目標の策定 (2)大宮学園ＰＴＡによる「家庭のやくそく」の取組 (3)大宮学園ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4)大宮学園教育支援協議会運営と大宮学園教育環境づくり (5)「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発	(1)大宮学園ＰＴＡの目標策定とともに、「令和版 家庭の心得」を配布し、掲示することができた。 (2)大宮学園ＰＴＡ事業計画に基づき、「エプロンでおはよう 挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。 (3)大宮学園教育支援協議会による地域連携、教育支援を進めることができた。また、学園コミュニティ・スクールに向けた取組を進めることができた。 (4)学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5)学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。

4　**今年度の成果と課題　改善方策**

成果と課題	改善方策
【成果】 (1)小中一貫教育の重点（学力・体験活動・不登校）と「大宮学園目指すこども像」整合性を図り、『連携・体験活動の充実』を経営の重点として推進できた。 (2)学園３会議（経営、運営、教育課程）及び３部会（学力充実、人権・生徒指導、教育支援）が機能させ、計画的に学園の事業・取組を進めることができた。 (3)すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。 (4)２度の授業研究会（市小中一貫教育授業研究会含む）や講師を招聘した学園研修等を通して、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を進めることができた。 【課題】 (1)学園評価を受け、小中一貫教育の３つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 (2)大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 (3)大宮学園教育支援協議会の学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）への円滑な移行を図り、より地域とともにある学園（学校）を目指す。	【課題】に対して (1)学園評価を受け、小中一貫教育の３つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 ① 市の教育課題改善のため、小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。 ② その具現化に向け焦点化した大宮学園小中一貫教育の重点策定を行う。次年度も今年度評価に基づき、『連携・体験活動の充実』、特に「精選（効果的・効率的）と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 ③ 指導の重点の具現化に向けて、学園で一貫して取り組むことの整理を行い、評価の充実を図る。 (2)大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 ① 大宮学園３会議と教育課程推進３部会の経営及び活動の充実と各校への効率的な接続を図る。 ② 連携教育活動を効果的・効率的に進める。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業研究を効果的・効率的に進める。 ④ 担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。 ⑤ ３つの力（ことばの力・思いやる力・つながる力）の育成に向けた授業づくりを進める。次年度から大宮第一小学校が府小研特別活動研究協力校の指定を受けることとなり、特別活動での連携をさらに進める。 (3)大宮学園教育支援協議会の学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）への円滑な移行を図り、より地域とともにある学園（学校）を目指す。 ① 大宮学園の教育課題を改善するための地域連携をこれまでの組織を発展させた学園運営協議会を活用して強化・充実させる。

（別紙様式２）

令和元年度　網野学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】

あ：明るく元気に進んで学ぶ子　　【知】意欲的に学習に取り組む子ども

み：みんななかよく支え合う子　　【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども

の：のびのび生き生きやりぬく子　　【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども

【学園教育目標】

将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1)規範意識の醸成

ア　学習規律の確立

(ア)人の話を聴く　(イ)時間を守る　(ウ)服装・姿勢を正す

イ　生活習慣の確立

(ア)　テレビ・ゲーム・インターネット・ＳＮＳなどのルールを決める

(2)確かな学力の育成

ア　主体的・対話的で深い学びの実現

イ　学びのスタイルの確立と活用能力の向上

(ア)本時の『めあて』を全体で共有し、提示する。　(イ)「思考をくぐらせる」場面をつくる。

(ウ)「考えを交流する」場面（ペア・グループ学習等）をつくる。

ウ　家庭学習の習慣化

(ア)低学年：２０分以上　(イ)中学年：４０分以上　(ウ)高学年：６０分以上　(エ)中学：９０分以上

(3)豊かな人間性

ア　積極的な生徒指導　イ　コミュニケーション能力の育成　ウ　ボランティア活動

エ　自立的に生きる基礎の確立

(ア)切れ目のない組織的な支援　(イ)保護者との連携

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1)学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2)学園内の全ての学校が、学園経営方針・目指す教師像を経営方針へ位置付け (3)学園内の全ての学校が、「これだけは！」の各学校の経営方針へ位置付け	○　経営会議で確認したことを各校、各会議・各部会で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 【児童・生徒アンケート（小学全 19 項目　中学全 20 項目）で肯定率 80%以上の項目数】 小１（19 項目）、小２（18 項目）、小３（19 項目） 小４（16 項目）、小５（18 項目）、小６（18 項目） 中１（15 項目）、中２（16 項目）、中３（13 項目） ○　年３回の全体研修会を貴重な学びの場として研修し、網野学園全体の教職員が共有の学びをすることができた。 【教職員アンケート「教職員が互いに学び合い、協働的な組織となった」肯定率 76%※昨年度 69%】 ○　「網野学園小中一貫教育だより」「網野学園小中一貫教育教職員だより」「網野学園教育応援会だより」

		を通して各校・各部会・応援会の取組を共有化することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1)規範意識を醸成し、落ち着いた環境をつくる取組 ア　「これだけは！」・「これだけは！」（授業編）の取組 イ　５年生中学校授業参観 ウ　６年生中学校授業体験 エ　６年生部活動体験 オ　乗り入れ授業・小小連携授業の取組・小中連携授業等の取組 カ　アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証 (2)未来を展望し、将来を切り拓く力を育成する取組 ア　家庭学習の手引き・家庭学習がんばり週間の取組 イ　６年生学年末テスト・６年生春季休業中の課題 ウ　中１ふりかえり集中学習・小４ふりかえり学習 エ　京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (3)思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係を築く取組 ア　アルミ缶回収・ボランティア活動 イ　挨拶運動	○　年間５回学園経営会議（園所小中）を開催し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら連携を深め、スタートカリキュラム・アプローチプログラムを実践したり、検証したりすることができた。 ○　行動連携「これだけは」を基に一貫した指導を行い、どの学校、どの園所でも落ち着いた環境を創り出すことができた。 ○　行動連携「これだけは」（授業編）を基に指導を行い、どの学校、どの園所でも「自分の考えを持つ」「授業で考えを交流する」を推進することができた。しかし、指導者として、更に一歩踏み込んだ指導をするまでには至らない部分もあった。 ○　小学校から中学校へ段差なく接続するために、「５年生中学校授業参観」「６年生部活動体験」「６年生体育祭取組見学」「６年生中学校授業体験」「乗り入れ授業・小小連携授業・小中連携授業」等に取り組むことができた。また、そのことにより規範意識を醸成することができた。 「５年生中学校授業参観」を今年度新たに実施したが、中学校の授業の「速さ」・「量の多さ」・「内容の難しさ」等を実感させることができた。 部活体験を６月に変更し実施した。中３から中１までいる中で、中学生は、小学生に対し中学生らしい態度を示すことができ、６年生は中学校への不安を減らすことなどができた。 土曜活用がなくなったため、今年度は６年生が平常日に体育祭の取組の見学を行った。チームごとに目的達成のために動く様子から、自分達で考える大切さ、行動の素早さ等多くのことを学んだ。 ○　児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、家庭学習頑張り週間、小４ふりかえり学習・中１ふりかえり集中学習・６年生春季休業中課題・６年生学年末テスト（定期テスト対策）等に取り組むことができた。　※今後の予定含む ○　思いやりを持ち、仲間と共に生きる人間関係を築くために、アルミ缶回収・ボランティア活動、挨拶運動に小中合同で取り組むことができた。 ○　情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学４年生、中学１年生等を対象に、ＮＩＴ情報技術推進ネットワークの篠原嘉一氏を講師として実施できた。ＳＮＳ利用におけるトラブルについて具体的に知ったり、トラブルに合わないための方法を知ったりできた。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア　教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ　授業研究会を通した研修会 ウ　学年部会を通した研修 エ　保幼小連携部を通した研修会 (2) 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア　６年生網野中学校合唱祭参加 イ　６年生体育祭取組見学 ウ　合同校外学習及び学びの交流 エ　小中合同交流事業（友だち交流会等）	○　行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にして、各校で授業研究を進めることができた。 　また、各校の授業研究を発表することで、網野学園の授業づくりについて発信することができた。 ６月２６日（水）網野北小学校「算数」 １０月２５日（金）島津小学校「外国語」 ※京都府小学校教育研究会外国語発表 ○　年４回の学年部会を通して授業研究、学力充実の取組の交流、共通の校外学習・合同交流学習に取り組むことができた。小小連携の連絡、調整ができた。 ○　小１学年部会（園所の参加）の中で、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証をしたり、研修したりすることで、園所小の協働意識を高めることができた。 ○　落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事、部活動体験、網野中学校合唱祭参加、授業体験等、児童生徒は交流を通して６年生は中学校への不安を解消したり、中学生は自己有用感を高めたりすることができた。また今年度は新たに、５年生は中学校の授業参観により中学校の授業規律、授業の速さ、内容の多さ等を実感することができた。 ○　網野高校教職員の授業研究会・網野学園教職員懇親会への参加、小中教職員の網野高校授業公開への参加等により、網野高校との小中高の交流を深めることができた。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 網野学園教育応援会の取組 ア　網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が一体となり、必要な教育支援を協議し、具体的な取組を推進して、教育力のある地域社会を目指す。 イ　網野学園小中（保・幼）一貫教育の推進に向け、学校（ＰＴＡ）、家庭、地域社会が連携して取り組む。 (2) 京丹後市ＰＴＡ協議会網野小中一貫校ＰＴＡの取組 ア　網野学園ＰＴＡとして、「学園合同交通安全運動」等、一体となって取り組み、学園「目指す子ども像」の実現に向けて連携して取り組む。 イ　どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！」（家庭編）の取組 (ア) 基本的生活習慣の確立 (イ) 規範意識の基礎の確立 (ウ) 家庭学習の習慣化	○　網野学園教育応援会の取組を通して、学校・家庭・地域が一体となり、挨拶運動等、必要な教育支援を行うことができた。 ○　網野学園ＰＴＡとして、「学園合同交通安全運動」等に一体となり、「目指す子ども像」の実現に向けて取り組むことができた。 ○　網野学園教育応援会により「下校時巡回パトロール」の取組が実施された。 ○　学園運営協議会に係るモデル指定（市教育委員会）を受けた。教育応援会の運営を通しながら、「網野学園教育応援会が学園単位での学校運営協議会（コミュニティ・スクール）への移行が可能か」について検証し、検証結果を報告した。※予定含む ○　今年度は網野学園と市ＰＴＡ共催という形であったが、網野学園家庭教育委員会も受付担当をするなど関わりながら「子育て講演会」が開催された。佛教大学教育学部　原 清治 教授により「子ども達のいじめや不登校」をテーマに講義をして頂き、子育てについて深く考えさせられる機会となった。 ○　【どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけ

		は！」（家庭編）】についてリーフレットを配布し、１０年間を見通して保護者と連携することができた。 ○　小中一貫コーディネーターが中心となり、学園だより・ホームページ・リーフレット等を通して、広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○　学園評価計画に基づいて、アンケートをとり、改善に生かすことができた。 ○　学校支援ボランティア等を活用し、網野町民が学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができている。

4　**今年度の成果と課題　改善方策**

成果と課題	改善方策
○　経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像・教育目標の実現に向けて経営することができた。 ○　学園経営の基本方針に基づいて、重点的な取組内容（①規範意識の醸成、②確かな学力の育成、③豊かな人間性）、行動連携を決定し、学園評価に結び付けることができた。 ○　運営会議・推進会議、また、重点２部会（生徒指導部会・教育相談部会）及び３部会（給食部・特別活動部・道徳部）の取組の成果・課題を把握し、総合調整をしたり、改善に努めたりすることができた。 ○　昨年度の評価に基づき経営・企画することで、小中一貫教育関連事業が６年生に集中していることに対する改善をすることができた。 ○　経営会議までに事務局会議等により学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像を実現するための調整及び事務作業を行った。 ○　経営方針に基づいて、運営上の課題の調整をしたり、年３回の学園全体研修会を実施するための調整及び事務作業を行ったりした。 ○　園所間・小小間・小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行うことで、目標に沿った連携や取組を行うことができた。 ○　小中一貫コーディネーターを中心に、保護者・地域との連携及び網野学園教育応援会の取組を進めることができた。具体的にあいさつ運動等の取組も実践することができた。 ○　網野学園「共同学校事務室」が、「京都式チーム学校推進校（共同学校事務室）」として、実践研究のテーマ・達成目標を設定し、定例会議（月２回）より、実務に関する共同での事務処理について実践	○　令和２年度についても、学園として「目指す子ども像」、「教育目標」の実現に向けて、ＰＤＣＡサイクルで、学園経営を行っていく。 ○　園、所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）」を目標とした実践研究が意欲的に進められている。※１：健康な心と体、２：自立心、３：協同性、４：道徳性・規範意識の芽生え、５：社会生活との関わり、６：思考力の芽生え、７：自然との関わり・生命尊重、８：数量・図形、文字等への関心・感覚、９：言葉による伝えあい、１０：豊かな感性と表現 　これら「１０の姿」を、子ども達の成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園・所と小学校との日常的な連携を一層進める。 ○　また、重点的な取組内容として、平成２９度より、「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。令和２年度についても継続して取り組み、実践を積み上げていく。同時に、行動連携についても継続して取り組む。その際、Ⅱ期の授業づくりを中心に、研究を推進する。 ○　主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業について、研究、実践を進める。 ○　網野学園の課題の一つとして、家庭学習が十分定着できていないことがあげられる。確かな学力の育成を図るためにも、系統的に家庭学習に取り組み、保護者と連携しながら、定着と内容の充実をさせていくことが必要である。 　低学年、中学年、高学年、中学校と期待される家庭学習の時間は増えていく。今年度のアンケート結果をみると、低学年から中学年へはスムーズに移行しているが、中学年から高学年、高学年から中学校に向けての移行で躓いている実態がみられる。

的に研究した。また日常的な電子会議を通して各校の状況・情報を共有しながら、組織力により各校課題の解決に取り組んだ。

△　経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組を提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長教頭は、経営会議に連絡報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進める。

△　来年度も、各校授業研究の教科等については、各校で決定し、行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にしながら、研究を深める。

※Ⅱ期の授業づくりに、より深く研究を進める。

【教職員アンケート】

・「思考をくぐらせる」

肯定率６０％　※昨年度７２％

・「考えを交流する」

肯定率６８％　※昨年度８７％

△　幼稚園教育要領・保育指針が、平成３０年度より実施。また学習指導要領は、小学校では令和２年度、中学校では、令和３年度より完全実施される。児童・生徒がどのように学ぶかに着目して学びの質を高めていく必要があるため、「確かな学力の育成」をする際の大きな柱として、「主体的・対話的で深い学び」の項目を設定した。次年度、Ⅱ期の授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。

△　島津小学校が、京都府小学校教育研究会外国語活動部会研究協力校（令和元年度発表）として、発表を行った。研究内容の成果を学園の授業研究に活かしていく。

△　重点２部会（生徒指導部会・教育相談部会）は、学期２～４回、その他の部会（給食部・特別活動部・道徳部）年２・３回と分け、運営した。今後も、課題に応じ、会議の精選を図り、運営していく。

△　園所小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行った。来年度も小中一貫コーディネーターが、各小中学校への訪問、各園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、連携を図る。

△　特別支援教育コーディネーターに係る会議等が必要な場合は、教育相談部・特別支援学級部等が柔らかな連携をする。

○　行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・ＳＮＳなどのルールを決める」を挙げている。しかし網野学園生徒指導部会のアンケート結果からも、大きな課題となっている。次年度も情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学４年生、中学１年生等を対象に、網野中学校を会場として実施する。経営会議、運営会議が担当する。ＰＴＡとの連携も図る。

○　不登校等学校不適応の児童生徒が高止まりとなっている。１０年間を見通して、家庭と連携し、一人一人の児童生徒が、学校の中に居場所を創ることができる力を身に付けていかなければならない。また、多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限り的確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていかなければならない。重点的な取組内容の中にも豊かな人間性に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。

中学校入学前に、４小学校の児童が顔見知りであったり、名前を知っていたり、話したことがあったりすることは、中学校入学後の人間関係づくりの上で大切である。全学年において、それぞれの学校規模等状況に応じて、柔らかな小小連携を強めていく。

授業の中で「学びの楽しさ」を感じさせたり、「生徒指導の３機能」を意識した指導をしたりすることは、不登校等学校不適応の減少につながるので今後も引き続き推進する。

○　第２回全体研修会で立命館大学　野田正人　教授（京都府まなび・生活アドバイザー）の講義を令和元年度に続いて計画する。内容については、授業改善に係るもので設定する。

（別紙様式２）

令和元年度　丹後学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子　【知】
②自分を大切にし、人を思いやれる子　【徳】
③ねばり強く身体をきたえる子　【体】

教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

①研究主題を『子どものコミュニケーション能力を育成する。』～生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係～として、コミュニケーション活動を重視する中で、「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善、確かな学力の育成につなげる。
②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保園小接続に係わる事業・小小連携合同事業と３つの事業の充実を目指す。特に、今年度は、保園小に関わる事業を重点に研究を進める。
③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。 ②重点教科を「算数・数学」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。 ③全体研修会、授業を通した研修会（３回）、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。 ④月１回の計画的な経営会議（校園所長会議）を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。 ⑤「学園だより」を発行して、取組の成果・課題の共有を図る。 ⑥組織的な会議運営を行い、教職員が自覚的に取組に参画できるようにする。 ⑦各会議や部会をそれぞれ学園内の各学校を会場にすることで、各校での取組の様子や児童生徒の状況を把握する一助とする。 ⑧丹後学園教育応援会との連携を強め、学園の教育推進に理解と協力をいただく。	○経営方針や計画に従って、学園経営を予定どおり進めることができた。学園内の教育課題の把握・整理を行い、経営方針のもと学園の重点（「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」「評価を見通した取組の充実」）を意識した経営につなげた。 ○運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保園小接続部会の４つの部会の実践について成果・課題を明確にし、今後の方向性を示し取組を進めることができた。 ○教育フォーラムにおいて「なかよし交流会」の授業を公開し、丹後学園の取組の概要と教育応援会の紹介、保園小接続部会の活動の報告を行い、高い評価を受けた。 ○学年部会で取り組む研究課題を引き続き設定したことにより、学年部会が充実し教材研究や指導方法の共通化等に取り組むことができた。さらに、目標と指導と評価の一体化を目指した授業研究をすることにより単元総括テストを作成することができた。《事務局会議（代表・庶務・学園コーディネーター）》 ○事務局会議を開催し、各部の取組状況や学園内の教育課題の把握・整理を行い、教育目標を実現するための調整・事務作業を行った。 ○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、年度初・末全体研修会、夏季研修会を実施するための事前準備、事務作業等を進めた。 ○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。 ○教育目標、目指す子ども像を学園単位で設定し、その実現に向けて一貫性のある教育活動を進め、実践を積み上げることができた。

		○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、校種を超えて連携を図り、全ての学校等が中学校を卒業する姿を想定し、目指す子ども像を共有していく意識が高まった。 ○夏季全体研修等において全教職員が一堂に会して、子どもの実態や今後の適切指導や評価のあり方について協議し、目指す子ども像を明らかにすることができた。 ○夏季研修会において、非認知能力についての理論研修をすることで、丹後学園が大切にしている保園小の接続の重要性を確認することができた。 ●次年度さらに小中一貫教育を推進していくため、子どもの成長につながった具体的な指導方法の資料化や子ども像への到達についての検証が必要である。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から算数・数学を研究し、指導の方向を２小学校でそろえる。 ③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。 ④学習指導・生徒指導を大きな柱として、１０年間を見通した取組を展開する。 ⑤小１プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。 ⑥中１ギャップ解消のため小学６年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。	○丹後こども園長、宇川保育所長を含め経営会議を実施し、連携を図ることで一貫した指導について取組を進めることができた。保園小の取組では、子どもたちの交流により小１プロブレムの解消につながったことや、接続プログラム・スタートカリキュラムを見直し改善を図り、実践したことにより円滑な接続となった。 ○年３回の学園授業研究会を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し生徒指導の３機能（自己決定、自己存在感、共感的な人間関係）を生かした授業研究「国語」・「社会」「数学」の授業の研究ができた。 ○「中学校授業体験、部活動体験」「小学校合同校外学習」「１年生と５歳児のなかよし交流」等、内容の充実を図りながら計画的に進めることができた。 ○「丹後学園生活のきまり」「にこちゃんはっぴいでー（交通安全・挨拶）」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組を行う中で、コミュニケーション能力を高める機会につながった。 ○交流行事や合同行事等の日程について、年度当初に確定することでスムーズでより効果のあがるものにしていくことができた。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①２小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。 【２小学校合同事業】 ②教職員全体研修会・授業研究会を年間３回実施するとともに、保園小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。 ③中学校１年生入学後１カ月ごろの状況及び出口となる中学３年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。（第Ⅱ期及び中３の公開授業）【小中合同事業】 ④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの作成 保園小接続部会でのスタート研修会【保園小接続に係わる事業】 ⑤保園小の子ども…５歳児と小１年生との交流会（２回） 保園小の教職員…５歳児と小１担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」	○自己有用感を高め、言語活動をとおして主体的な授業を推進するために小・中学校で「丹後学園学びの指導（指導の視点、学びの力）」をもとに、授業研究を行うことができた。 ○夏季研修会で新指導要領の実施を控え、改定のポイントや全面実施までの動き等の理解を深めた。また各部会の実践交流を通して教職員交流を図ることが進んできた。 ○合唱祭・部活動体験・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校生活への不安を解消する機会になった。 ○合同修学旅行、校外学習、合同避難訓練を通して小小、幼中の交流が深まり、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を創り上げたりすることができた。 ○各校種での教師の動きや指導を参観することで、互いに学び合うことができ系統的な学習の意義が再確認できた。 ●行事の精選、研修設定を工夫し、適切な時期に実践できるようにしていくことが必要である。

家庭、地域社会との連携、情報発信	①「丹後学園教育応援会」の機能化と充実を図る。（年間２回） ②「丹後学園だより等」を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。 ③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。	○学園だより・ホームページ・リーフレット等により、情報発信を行い広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○丹後学園教育目標をふまえ、丹後小中一貫校ＰＴＡとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組を行うことができた。（６月、１１月の１５日を一斉挨拶運動） ○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園教育応援会の会議を年度当初より開催し、小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。 ○学園評価計画に基づいて、アンケート等をとり、改善に生かすことができている。 ●小中一貫教育の成果をさらに広く発信し、地域住民へ学園の重点が浸透するように本年度の取組を継続していくことである。

4　**今年度の成果と課題　改善方策**

成果と課題	改善方策
今年度の成果 ①導入準備期間を含め５年間行ってきた実践を活かして、本実施４年目の丹後学園の経営がスムーズにできた。組織や会議について当初計画したことが、予定どおりに実施できた。 ②発足４年目となる小中一貫教育支援協議会（名称：丹後学園教育応援会）に様々な支援をいただいた。 ③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組を実践することができた。コミュニケーション力の育成を研究主題に掲げ、各保園小中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。 ④小１プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」において、「丹後学園」として、計画的に研究を深めてきた内容を研究発表・授業公開を行うことで、京丹後市に広く発信できた。 ⑤小学校間（校区２小学校）の学年ごとの合同学習、修学旅行等ができ、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。 ⑥小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解をさらに深めることができた。さらに、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、３回の授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学３年生の姿を共有することができた。 ⑦昨年に引き続き、算数・数学の指導を中心に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。 今年度の課題 ①学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用をさらに進める。 ②」総合的な学習の時間の学習内容に重複があるので、丹後学園としての総合的な学習の時間の系統立てた内容づくりが課題としてある。	○経営会議は、次年度も、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。 ○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。 ○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保園小接続部の４部会とする。 ○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。 ○令和２年度京丹後市給食研究会と、令和２，３年度京都府給食研究会に向けて、学園の中に対応する特設組織をつくる。 ○令和元年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通した取組の充実」を設定していく。 ○夏季研修については、運営部会が企画、計画、運営をする。 ○授業研究については、「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の三機能を生かして～」を研究主題として学園で研究を行う。 ○授業研究の推進役は教務主任であるので、授業研究は教育課程会議・学力充実部会が所管する。 ○小中全教職員が積極的な授業研究にかかわるためにも、視点を明確にした協議をしていくことである。 ○「コミュニケーション能力の育成」に関しては、生徒指導の三機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を生かした取組を充実させていく。特に、授業の中にも生徒指導の３機能を生かした実践を積み上げていく、積極的な生徒指導を行う。また、学校や地域社会の一員として集団の中で人とかかわる機会を生かし、コミュニケーション能力を身につける。 ○生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、中学校卒業時に身に付けるべき良好な人間関係を構築できるよう実践を重ねていく。 ○学園評価について、令和２年度については、目標を立て、指導し、評価をしていき学園経営を実践していく。また、教育目標の達成に向けた取組の成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。

（別紙様式２）

令和元年度　弥栄学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、
たくましく生き抜く児童生徒の育成」

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
・授業実践力等の向上（他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて）
（２）自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の３機能を生かした実践の推進
・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
（３）教育活動全体を通して「思いやる心」の育成

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	１　自立の基盤をつくる （１）　学園として小中一貫教育の取組を計画的に進める。 （２）　学園内の教育課題、各会議、部会等の把握、指導助言する。（経営会議） ２　教職員の連携 （１）　教育目標、目指す子ども像等を共有し、重点課題及び取り組みの柱を定め、実践する。 （２）　学力の定着、コミュニケーション力、規範意識向上、教職員の資質向上をめざす。 ３　信頼される学園づくり （１）　学校、園、家庭、地域社会が連携した「横の連携」を深め、教育目標の具現化を目指す。 （２）　弥栄学園支援協議会との連携と教育環境づくりに努める。	○　昨年、整理した組織体制によって役割をより明確にして各部会の取組の評価を行い、進行管理に努めた。計画的に会議を設定し、課題を整理し学園経営を予定どおり進めることができた。経営方針のもと学園の重点（「主体的・対話的・深い学びの実現を目指した授業づくり」、その土台となる「生徒指導の３機能を生かした実践」）の大切さを公開授業や事後の研究協議し、日々の授業に生かしてきた。 ●　継続、廃止を年度内で検討し、園、各校の行事と重なることを回避し行事計画の策定をする必要がある。目指す子ども像を意識した指導について、校種を超えて協議する機会を計画し、検証する時期も取組後に設定するなど具体的な動きが迅速にできるようしていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	１　学力向上、授業づくり （１）　幼小中の接続を意識 ・こども園参観、実態報告後研修 （２）　授業研究等 ・夏季研での中学校からの実践報告 ・公開授業後の研究協議（日々の授業に生かすポイント、課題の整理等） （３）　深い学びへ誘う授業展開 ・学習意欲を高める ・安心できる学習環境	○　教育目標、目指す子ども像について、今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んだ。授業公開や小・中学校の教科担当者から児童生徒の実状や具体的な指導方法について実践報告があり、今後の教科指導について深く考える機会となった。 ○　夏季全体研修では「こども園」の子ども達の活動を参観し、幼児期における指導や支援について報告を受け、幼小中学校の１０年間を見通して教育する

	2　教育活動全体を通した「思いやる心」の育成 （1）　子どもの実態を把握し、適切な指導について研究協議を行う。 ・合同研究会 ・公開授業 ・状況交流 （2）　交流活動の活性化を図る。 ・合同授業 ・児童と生徒の意見交流等 ・部活体験 （3）　生徒の３機能を生かした実践を推進する。 ・自尊感情、自信と責任 ・上級生への憧憬 等を実感させる。	重要性を実感できた。（園児から児童、児童から生徒へ発達する過程を踏まえて、指導を展開していく） ●　今後の指導において、深い学びへ導く授業をめざすために、自力解決するために熟考したり、仲間と共にじっくりと協議したりすることが求められる。そのためにも日々の授業で考える活動の場を提供することや評価材料として複数回の思考を繰り返しながら解答を導き出す問題の設定を準備していくことが要る。言外の意味を汲み取る十分な読解力をつけることが迫られる。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	1　子どもの活動 （1）　幼・小 （2）　小・小 （3）　小・中 ・体験入学、合同授業、部活体験 児童会・生徒会交流 2　教職員 （1）　小中合同授業研 （2）　出前授業（中から小へ） （3）　夏季全体研修会 （中学校の授業実践報告等）	○ 英語を活用した合同授業では小学生の活躍の場が少なかったものの中学生の自己有用感や中学生の姿に憧憬の気持ちを持つ機会になった。 ○ 部活動体験については、小中ともに意義のあるものとなった。関心を寄せる小学生は多くいた。 ● 各校ともに学校行事等の取組と並行して準備していくこともあり、形ばかりを取り繕うことになった感もあるため、発展的解消として英断していくことが要る。 ● アンケート結果等をもとに進めるべき取組については、時期とねらい、円滑な運営となるよう計画的に行うことである。
家庭、地域社会との連携、情報発信	1　連携を図る （1）　ＰＴＡ、地域ボランティアの協力 ・登校時のあいさつ、交通安全指導 ・マラソン大会時の交通安全 ・学校行事参観 （2）　情報発信 ・リーフレット作成 ・たより、ＨＰによる行事等紹介	○　行事の事前連絡や行事後、速やかに活動内容を整理し、学園ニュース（教職員向け）、小中一貫教育だより（保護者、地域向け）、学園ホームページにより情報発信を定期的に行った。また年度初めにはリーフレットを活用し、広く発信ができた。 ○　弥栄学園教育目標を弥栄小中一貫校ＰＴＡの共通した目標と設定し、連携・協同した取組を行うことができた。（学園Ｐ家庭教育委員会　音楽を通した親子のふれあい、交通安全、挨拶運動） ○　校外でのマラソン大会時の交通安全指導は、地域の、支援協議会、ＰＴＡの方々に協力が得られた。（情報発信、協力依頼等） ●　小中一貫教育の手法を用いた学園としての教育活動について、理解や成果を今後も定期的に発信し、地域住民へ教育目標がより浸透していくことである。

4　**今年度の成果と課題　改善方策**

成果と課題	改善方策
○経営会議 年間を通して、運営会議、教育課程会議、３つの部会の取組の成果を束ね、教育実践の方向性や到達点を明らかにし進めた。 ○月１回のペースで定期的に会議を設定し計画の進捗状況や園・各校の状況も交流しながら計画を進めることができた。 ＊肯定的評価、課題（アンケートから） ・授業に関して・・・話し合い活動を積極的に取り入れることが増えた。 ・安定した学園・学級経営が、児童生徒の落ち着いた生活を担保している。 ・自己肯定感は、小学校、中学校とも全国平均より低い結果となった。 ＊体験授業を受けて、児童の授業や勉強への不安は少し和らぎ、中学校への入学を楽しみする児童が昨年より増えた。 ＊弥栄学園の取組はよいことだと８割を越える肯定的な回答があったが、地域の特徴を生かした小中一貫教育については、わかりづらいとする地域、保護者からの回答があった。 ＊教員の主体的な事前準備や協力により子どもの活発な活動を見ることができた。さらに効果的な取り組みになると成果が期待できる。	１　次年度の京丹後市小中一貫教育授業研をとおして、小・中学校での授業づくりに力点を置き第Ⅱ期、Ⅲ期の充実をめざした研究を深める。 ・幼小中学校１０年間を見通した指導展開をしていく。（園から小、小から中への発達過程を踏まえて、系統的な計画を意識して進める。） ・教育活動全体を通して「思いやる心」を育成し、人権風土に包まれた安心安全な教育環境づくりに全力を尽くす。 ・他者の意見を尊重し、自分の意見をもち、発信する力をつける。 ２　交流・連携活動により体験活動を活性化する。 ・園と小、小と小、小と中との活動により、自信と責任、自己有用感を身につける機会とする。 ３　学園の教育目標の具現化を図るために、機能的な動きに加え、効率よく取組の運営ができるように組織を整理する。 ・教育課程会議と学力充実部会は、今年の実績に沿い教育課程を中心に行う部と学力・授業研究を行う部にすみわけをしてそれぞれの活動を充実させる。 ・園、小接続部会の担当は、こども園園長が代表となり、教育課程会議担当校長が代表とともに取組充実を図る。 ・特別支援学級部会は、学年会の一つとして位置付ける。

（別紙様式２）

令和元年度　久美浜学園小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

［教育目標］
「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」
［目指す子ども像］
（知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども
（徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども
（体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

２　小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

（１）中期的な展望（取組の見通し）

年度	教職員の意識	学力	ギャップ（不登校）
２８年度（1年次）	各校の取組の共通点をベースに取り組む	共通項をもとにした取組	保幼小の接続・各校の取組交流
２９年度（２年次）	学園中心の事業の展開・10年間のカリキュラム（必要な教科）検討	授業についての論議・これだけはの推進	児童生徒の情報共有・指導の継続性
３０年度（３年次）	中３卒業までに付けたい力と指導についての教職員による論議	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の在り方確認
１年度（４年次）	指導の充実期・新学習指導要領と新教科書への対応（小）	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の系統性確認
２年度（５年次）	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ・新学習指導要領と新教科書への対応（中）	授業スタイルの充実	情報共有・学園としての指導の継続

（２）重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導　～

（３）指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底　②言語活動の充実　③家庭学習時間の確保

（４）取組の柱

ア　１０年間（就学前から中学校卒業まで）の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上
　(ｱ)久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。
　(ｲ)目指す授業として、次期学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「言語活動の充実」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの考えを深めるための教育活動を志向する。
イ　各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校（園）づくり、授業づくり
　(ｱ)生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。
　(ｲ)基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきる。
　(ｳ)系統的な「話し合い活動」の指導とスキルの向上を目指した取組を進める。
ウ　子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化
　(ｱ)共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事
　(ｲ)豊かな教科指導を目指す指導交流（保幼小連携、小小連携、小中連携）
エ　保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。
　(ｱ)ＰＴＡ、学校地域連携推進協議会、地域本部事業との連携
　(ｲ)家庭学習時間の確保に向けた連携

３　小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア　年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による学びを通して、共有を進める。 イ　年３回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充実を図る。 (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、ＰＤＣＡで改善を図りながら共通理解を深める。	○久美浜学園７校園が一つの目標に向かって取り組むことができ、また意識としてもさらに共通理解が進み、小中一貫教育を手段として取り組む素地が整ってきた。今後も「理解と対話」を進め、その上で具体的に取組を進める。 ○テーマや子ども像を受けた様々な取組の中で、教職員が交流し、相互理解が一歩ずつ進んでいることが大きい。今後も丁寧に進めていく。 ○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、常に目標やめあてを振り返りながら進めていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア　考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ　郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進 ウ　保幼小の接続を中心とした教育課程編成 (2) 重点指導 ア　学力向上 (ｱ) 授業規律の確立 (ｲ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ　不登校の解消 (ｱ) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (ｲ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ｳ) 自尊感情の高揚 (ｴ) 保幼・小・中の連携強化 ウ　今日的課題（情報機器の安全な取り扱い） (ｱ) 「法やルールに関する教育」の推進 (ｲ) 人権教育の推進	○学園テーマ「言語活動の充実」を各校で追求するとともに、全体交流会のテーマに設定し、中３卒業時の姿について一歩ずつ共有できてきた。また、その成果として『１０年間を見通した言語能力表』を作成し活用できた。深い学びについての理解や各校種での目指す姿について協議できた。 ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小１スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。 ○久美浜学園「授業心得」や小中共通指導事項を継続して取り組んだ。 ○４教科の「これだけは」は小学校でつける力として意識できた。６年生の春休みの課題を見直すことができた。 ○ＩＣＴを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にＩＣＴを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。 ○ＰＴＡ・保護者会を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。また、メディア・コントロールを学園全体で進めた。特に小中では、教育課程会議から家庭学習時間の確保、養護部会では保健指導を行いメディア・コントロールについて取り組めた。 ○教育相談部を毎月開催し、情報の交流と指導方法の連携を進めた。 ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的生活習慣の確立を各校で図ることで、不登校の解消に取り組んでいる。 ○情報機器の望ましい活用（情報モラル）のための特別講演会を小４、全中学生、保護者対象に実施し、学ぶことができた。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働 ア　中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議 イ　児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進 ウ　「言語活動の充実」の系統性を意識した指導を目指す授業研究 (2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア　小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働 イ　振り返りスタディ等指導面での協働 (3) 幼児児童生徒の行動連携 ア　保幼の連携 イ　保幼小の連携 ウ　小小連携 エ　小中連携	○全体会・公開授業、交流会等の教職員の行動連携につながる取組では、学びが深まったとか、いろいろな意見が得られ自分の取組に活かせたという肯定的な意見が多い。実際に子どもの姿を見ることで、保幼小中の指導の連続性を図っていく。 ○一方で、行動連携の内容としてもっと具体的な教科や内容にすべしという意見もある。 ○教職員の行動連携においても、交流の継続の大切さと同時に、資料の相互提供など工夫ができる。 ○子どもたちの行動連携事業についても、どの取組にも価値を見出し、そのことを活用して日々の指導に活かすなど、単に事業として終えるだけではなく、そこから広げて学びの機会になっている。それぞれの交流事業の良さを感じている。 ○特に小小連携事業の内容や時期については再検討を望む意見がある。 ○ねらいは中学校での出会いのための「仲間を知る」ということにしぼり、負担の無いように進めていく。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発 ア　たよりの発行（学期１～２回程度）、有線放送による取組紹介 イ　リーフレットの作成（４月保護者参観等で配布、説明） ウ　ホームページによる広報活動（久美浜学園のページ作成） (2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進 (3) 学校地域連携推進協議会の取組を通した「久美浜を支える人」の協議 (4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援 (5) 久美浜学園ＰＴＡ・保護者会との連携による家庭教育支援	○小中一貫コーディネーターの活動により、様々な取組をいろいろな機会を通じて広報できた。その結果、保護者アンケートによると、学園の取組に対する肯定的な意見が年々増えてきており、また、分からないという意見が減ってきている。旧小学校ごとの６つの地区の区長会等に校長、コーディネーターが参加し発信する場を設けた。 ○学校地域連携推進協議会では、学園の取り組みを紹介し、支援を求めるだけでなく、設立当初より「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議を進めることができた。次年度からの学園運営協議会に移行に向けて準備ができた。 ○多くのボランティアの皆さんの協力を得て、学園内各校園所の活動が広がっている。 ○保育所園・こども園も一緒になった久美浜学園独自のＰＴＡ・保護者会が設立され２年目となり、一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」「スマホ講演会」等１０年間を見通した取組に一歩ずつつながってきている。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
○テーマ「対話と理解」が授業公開と交流会各部の取組等を通して一層進んできた。交流会で「みんながわかる授業づくり」について話し合い、小中一貫の意識化につながった。 ○幼児教育・保育における取組について学べ、幼児から小学校への接続やその意義について理解が深まってきた。 ○各会議、各部のミッションをより明確にしたことで、限りのある部会ですることが明確になった。また、経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程に関しても一致して進めるシステムがさらに機能してきた。 ○１０月の公開授業の際、全体会でタブレットの操作方法、活用法についての講習を受けた。試行錯誤しながら、どのような活用が効果的かを各校で研究できた。 ○小中連携事業のほか、小小連携事業や園・所の連携事業も確実に実施でき、将来につながる取組にできた。 ○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・幼小中のつなぎが確実に進んだ。 ○４ＰＴＡと３保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園ＰＴＡの基盤が確かなものになった。 ○学校地域連携協議会で「久美浜を支える人」についての話し合いがより進められた。 △久美浜学園の児童生徒の現状として、後ろ向きの雰囲気に流されてしまうところがある。前向きに継続していく力をつける必要がある。 △連携部会の取組は回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることが難しい。また、事務局のコーディネートがますます多くなってきている。 △学校授業公開と交流会の成果は非常に大きなものであった。授業研究に踏み込むため、各校の重点研究をベースに担任会での学び合える機会を設定したが、日程的にも難しく活かせなかった。	・令和２年度（５年次）を深化の年ととらえ、成果の検証を行う。これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、次の段階にステップアップしていく。市小中一貫教育推進計画の更なる共通理解を図り、更に学校園所公開や交流会を引き続き進める中で指導方法等の継続性について論議していく。具体的には、テーマを「主体的に学ぶ力の伸長」と設定し取り組んでいく ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の課題について、肯定的評価を基盤に学園の教職員の指導観を見つめ共通化していく。 ・ＩＣＴの活用方法を整理し、学習効果の上がるＩＣＴの活用法について研究を深める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組む。 ・授業研究に踏み込むため、各学校の重点研究をベースに担任会での学び合いを進めるため、研究授業に参加しやすくするための日程調整、授業に関する資料の配付等を行う。 ・運営面ではこれまで進めてきた部会・会議や事業が一定落ち着いてきたことを受けて、より精選していく。 ・学園運営協議会発足に向けて、規則等を確認しながら進める。